

腸管出血性大腸菌（^{オー}O157）感染症患者の発生について

1. 患者の状況

- ・患者 高岡厚生センター管内 男性（50歳代）
- ・経緯 8月12日（土）腹痛、下痢
8月13日（日）医療機関を受診、検便実施
8月21日（月）医療機関にて腸管出血性大腸菌 O157（VT2）検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 現在、快復している

2. 患者及び感染源調査

- ・患者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- ・患者家族等接触者の健康状況調査を実施

3. 対応

- ・患者自宅等の消毒を指示
- ・患者及び患者家族等に対し、衛生教育を実施

4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、
十分洗浄消毒してから使いましょう
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食
べる時の箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

5. 参考	(平成 29 年)	(平成 28 年：同時期)
(1) O157	11 名（本事例を含む）	0 名
(2) O26	7 名	3 名
(3) O91	3 名	0 名
(4) O121	0 名	3 名
(5) O145	0 名	1 名

【報道機関各位へお願い】

報道に際しては、患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。